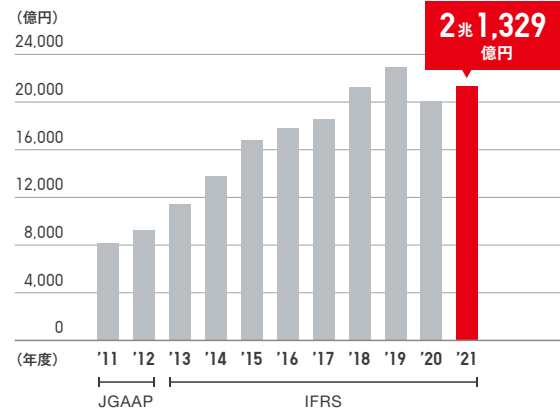


売上収益

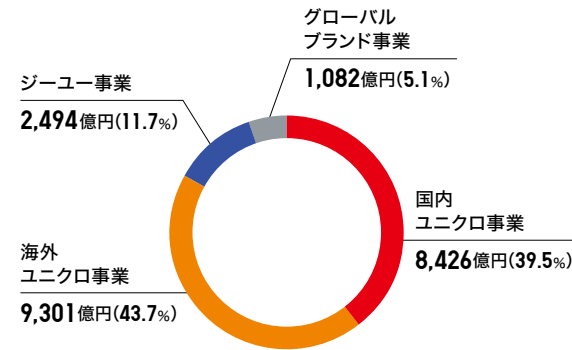
2兆1,329億円 | +6.2%



売上収益は2兆1,329億円、前期比6.2%増。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前期に比べ、ユニクロ事業を中心に業績が回復。グループ全体のEコマース売上高は約20%増収と好調。

海外ユニクロ事業の売上構成比

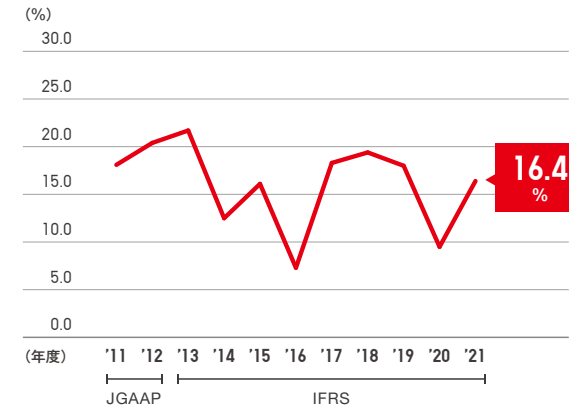
43.7% | +1.7pt



海外ユニクロ事業の売上構成比は43.7%、前期比1.7ポイント増。特に、グレーターチャイナが大幅な増収と、業績全体をけん引。北米、欧州は2021年5月以降、売上が大きく回復。

ROE

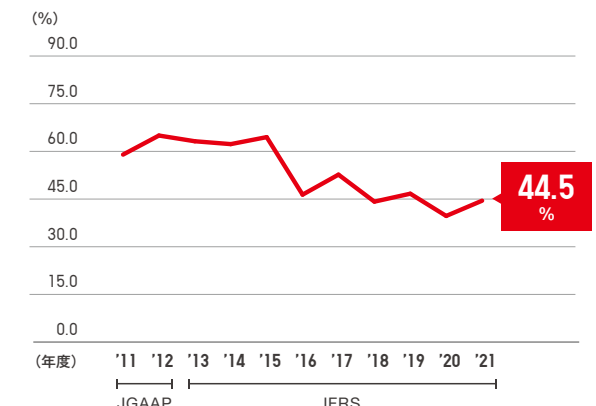
16.4% | +6.9pt



ROEは16.4%と、前期比6.9ポイント増。親会社の所有者に帰属する当期利益が同88.0%増と大幅な増益となったため。

親会社所有者帰属持分比率(自己資本比率)

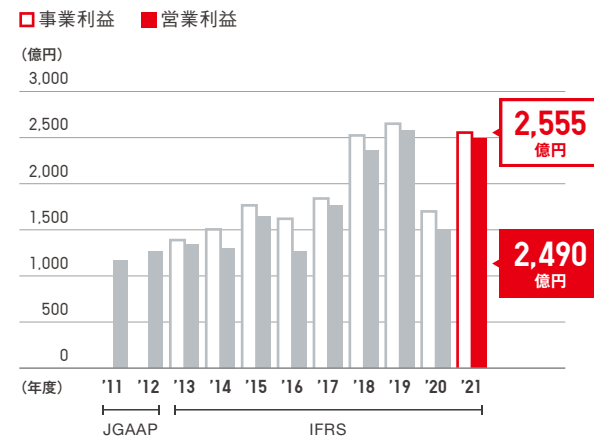
44.5% | +4.8pt



自己資本比率は44.5%と、前期比4.8ポイント増。親会社の所有者に帰属する持分(自己資本)が1,599億円増加したこと、1,000億円の社債を償還したため。

営業利益

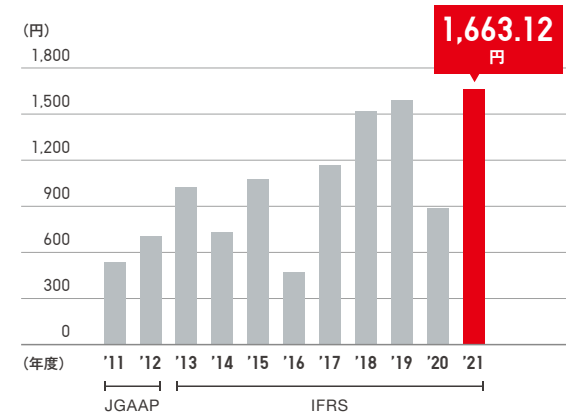
2,490億円 | +66.7%



営業利益は2,490億円、前期比66.7%増。海外ユニクロ事業は前期比121.4%増、国内ユニクロ事業は同17.7%増、とユニクロ事業を中心に大幅な増益を達成。

基本的1株当たり当期利益 (EPS)

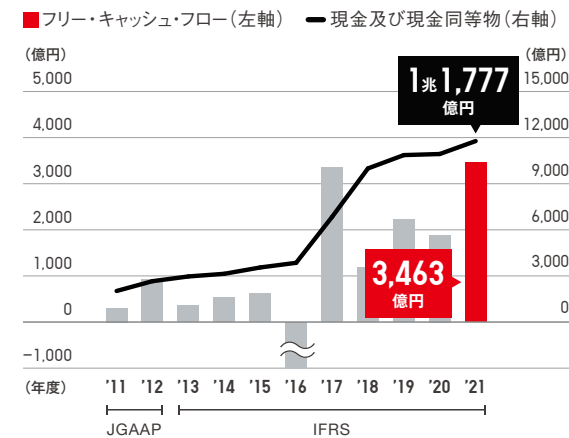
1,663.12円 | +87.9%



営業利益が大幅な増益になったこと、外貨建資産などの換算による為替差益を含め、金融収益・費用が168億円のプラスと前期比で大きく増加したこと、基本的1株当たり当期利益 (EPS) は1,663.12円、前期比87.9%増。

現金及び現金同等物

1兆1,777億円 | +7.7%

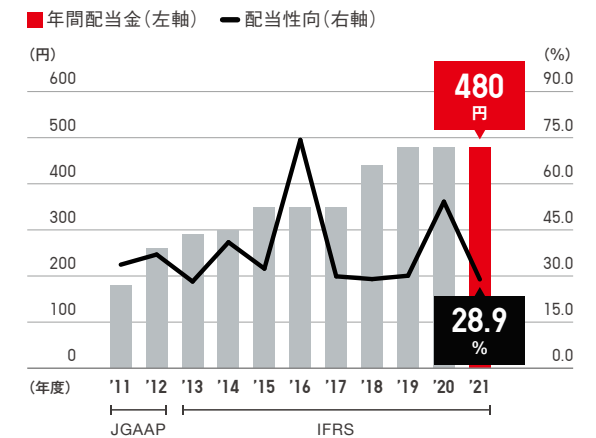


営業活動(4,289億円の収入)と、投資活動(825億円の支出)を合わせたフリー・キャッシュ・フロー (FCF) は3,463億円のプラス。財務活動は3,029億円の支出となり、現金及び現金同等物の期末残高は1兆1,777億円、前年同期末比7.7%増となる。

※ 2016年8月期のFCFがマイナスとなったのは、投資活動の支出に3ヶ月超の定期預金による支出1,865億円が含まれていたため。

1株当たり年間配当金

480円 | ±0円



1株当たり年間配当金は480円。配当性向は28.9%と例年と同等の水準。

※ 2016年8月期の配当性向が高い要因は、円高の影響で金融損益がネットで370億円のマイナスとなり、EPSが大幅に減少したため。
 ※ 2020年8月期の配当性向が高い要因は、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅な減益となったものの、中長期での事業の成長性や当面のキャッシュ・フローに鑑み、2019年8月期と同額の配当を維持したため。